業績予想の修正についての補足説明

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 23 年 5 月 17 日に公表した、平成 24 年 3 月期 第 2 四半期累計期間（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）の連結業績予想、および平成 24 年 3 月期 通期（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）の連結業績予想を下記のとおり修正します。

記

1. 連結業績予想数値の修正

(1) 第 2 四半期連結累計期間（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)(5/17 公表)	160,000	5,700	5,000	2,000
今回修正 (B)	188,000	11,000	10,000	4,800
増減額 (B-A)	+28,000	+5,300	+5,000	+2,800
増減率	+17.5%	+93.0%	+100.0%	+140.0%
(参考)前第 2 四半期累計実績 (平成 23 年 3 月期第 2 四半期)	181,049	14,036	14,578	7,570

(2) 平成 24 年 3 月期 通期（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)(5/17 公表)	360,000	19,000	20,000	10,000
今回修正 (B)	390,000	22,000	22,000	11,000
増減額 (B-A)	+30,000	+3,000	+2,000	+1,000
増減率	+8.3%	+15.8%	+10.0%	+10.0%
(参考)前期実績 (平成 23 年 3 月期)	379,816	22,924	23,371	8,521

2. 修正の理由

平成 24 年 3 月期第 2 四半期累計期間における当社グループの事業環境は、自動車向けの需要が当初の想定以上に回復し、加えて非鉄金属価格が総じて高値で推移しました。また、東日本大震災の影響を受けた生産拠点は計画通り復旧し、当初懸念された夏場の電力不足も生産体制のシフトで対応するなど、操業も順調でした。この結果、環境・リサイクル、製錬、電子材料、金属加工、熱処理全ての事業部門で前回予想を上回る営業利益を見込んでいます。

一方、下期については、足許で非鉄金属価格が大幅に下落していること、円高が長期化していること、また世界的な金融情勢の悪化により景気の先行きが不透明であることを勘案し、前回予想を見直しています。

以上により、今年5月17日に公表しました前回予想に比べ、中間期は、売上高が280億円増収の1,880億円、営業利益が53億円増益の110億円、経常利益が50億円増益の100億円、当期純利益が28億円増益の48億円となり、通期は売上高が300億円増収の3,900億円、営業利益が30億円増益の220億円、経常利益が20億円増益の220億円、当期純利益は10億円増益の110億円となる見込みです。

なお、業績予想の前提条件は以下の通りです。

	前回予想 (5/17公表)	上期平均	今回修正 (下期前提)
為替 (円/ドル)	80.0	79.8	77.0
銅 (ドル/t)	8,500	9,072	7,000
亜鉛 (ドル/t)	2,100	2,240	1,900
インジウム (ドル/kg)	650	732	650

2. セグメント別業績予想

(1)第2四半期連結累計期間 (平成23年4月1日～平成23年9月30日)

単位：億円

	前回予想			今回修正			増 減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環境・リサイクル	400	11	12	440	14	11	+40	+3	△1
製 錬	650	3	△3	760	28	25	+110	+25	+28
電 子 材 料	390	26	29	480	29	32	+90	+3	+3
金 属 加 工	330	16	16	390	22	23	+60	+6	+7
熱 処 理	70	0	0	93	9	8	+23	+9	+8
消 去 ほ か	△240	1	△4	△283	8	1	△43	+7	+5
合 計	1,600	57	50	1,880	110	100	+280	+53	+50

(2)通期連結業績予想値の修正 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

単位：億円

	前回予想			今回修正			増 減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環境・リサイクル	850	47	55	880	49	55	+30	+2	0
製 錬	1,600	25	33	1,650	34	38	+50	+9	+5
電 子 材 料	750	62	68	930	60	63	+180	△2	△5
金 属 加 工	700	44	45	770	50	51	+70	+6	+6
熱 処 理	160	10	10	193	19	18	+33	+9	+8
消 去 ほ か	△460	2	△11	△523	8	△5	△63	+6	+6
合 計	3,600	190	200	3,900	220	220	+300	+30	+20

環境・リサイクル部門

中間廃棄物処理及び土壌処理については、需要環境は厳しい状況が続いていますが、処理品目の増加などを行い、概ね想定の範囲内で推移しています。リサイクル事業では上期に貴金属価格の上昇や家電リサイクルの増処理により増益となりました。これらの結果、通期での営業利益は前回予想に比べ2億円増益の49億円となる見込みです。

製錬部門

上期は、東日本大震災による影響からの復旧を含め、生産・販売量共に堅調に推移しており、また非鉄金属価格も高値圏で推移しました。この結果、上期営業利益は前回予想に比べ25億円増益の28億円となる見込みです。一方、足許では非鉄金属価格が下落しており、通期での営業利益は前回予想に比べ9億円増益の34億円となる見込みです。

電子材料部門

上期は新興国需要を反映して順調に推移しており、営業利益は前回予想に比べ3億円増益の29億円となる見込みです。一方、下期は特に半導体関連製品の需要減退が予想され、通期での営業利益は前回予想に比べ2億円減益の60億円となる見込みです。

金属加工部門

上期は伸銅品、貴金属めっきの販売が、特に自動車関連向けで計画を上回る水準で推移しました。この結果、上期の営業利益は前回予想に比べ6億円増益の22億円、通期も6億円増益の50億円となる見込みです。

熱処理部門

自動車関連向けが計画を上回る水準で推移したことに加え、アジア、中国市場を中心とした、建設機械・産業機械向けの販売量が伸張しています。これらの結果、上期の営業利益は前回予想に比べ9億円増益の9億円、通期は9億円増益の19億円となる見込みです。

(注) 上記の予想については、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上